

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
居宅介護支援事業所事業所サービス連絡会

開催日：令和3年11月29日（月）

時 間：10:00～11:30

場 所：阿南市役所 307・308 会議室

目 的：同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源
の把握、課題の抽出等を行う。

参加者：23名

心和会在宅介護支援センター悠和	：管理者	山脇 敦子
居宅介護支援事業所らいず	：管理者	布川 いずみ
介護支援サービス阿南市社協	：管理者	若木 純子
公益社団法人徳島県看護協会指定居宅介護支援事業所阿南	：管理者	仁禮 秀人
あすみ在宅介護支援事業所	：管理者	佐野 あけみ
健祥会ケアプランセンター阿南	：管理者	入江 陽子
有限会社ライフサポートキムラ居宅介護支援事業部	：管理者	福島 初美
阿南名月苑居宅介護支援事業所	：管理者	米崎 弘実
青彩会在宅介護支援センター	：管理者	多喜田 サヨ子
健祥会ケアプランセンター	：管理者	井出 千穂
居宅介護支援事業所ほっとピース	：管理者	倉橋 智子
すだち会居宅介護支援事業所	：管理者	萩原 由紀
居宅介護支援事業所夢・美月	：管理者	住友 早苗
シルバーエイジ指定居宅介護支援事業所	：代表者	佐藤 正廣
居宅介護支援事業所イツモ新野	：管理者	大黒 眞佐美
指定居宅介護支援事業所ロイヤルケアセンター	：管理者	竹本 恵美
指定居宅介護支援事業所ロイヤルフラワーガーデン	：介護支援専門員	山畑 知佳
双葉会居宅介護支援センター	：介護支援専門員	久米 陽子
地域共生推進課	：課長	日下 浩之
地域共生推進課	：主査	松崎 由美
地域共生推進課	：事務主任	織原 裕希
介護保険課	：課長補佐	森口 照美
在宅医療・介護連携支援センター	：センター長	湯浅 祐司

(1)挨拶：阿南市地域共生推進課 日下浩之課長

(2)本会について事務局からの説明

同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
また、在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行うことが目的。

(3)自己紹介

(4)意見交換

◆日頃のモチベーションアップへの取り組みについて

- ・働き方改革で、必ず定時で終了をし、プライベートの充実を図っている。
- ・困難事例等について一人で抱え込まず、他の職員と一体となって対応等を行っている。
- ・管理者より誕生日プレゼントを頂いており、モチベーションアップに繋がっている。
- ・一人ケアマネ事業所は他に相談する方がいないので、とにかくストレスを溜めないように心掛けている。
- ・職員の高齢化に伴い新規採用を募集してもなかなか採用に繋がらないので、高齢だからできるチームワークで協力し合っている。

⇒各事業所で色々な取り組みを行っており、良い傾向もあるので意見交換で出た意見を取り入れていく。また、悩み等を相談する事ができない場合は、この部会でできた繋がりや相談等をして、利用者のためにモチベーションアップに繋げる。

◆新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等の感染症対応

- ・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種についてどのように把握を行っているか。
- ⇒モニタリングや訪問時に確認をしている。接種日までは把握していないが今後は把握していくことも視野にいれる。

◆医療サービス連携シートの活用状況について

- ・連携シートの存在を知らない医師がおられるので活用できていない。
- ・連携シートで費用を求められることもあり、統一化が図れないか。

⇒連携シートを医師に知って頂くために、医師会等に説明を行う。在宅医療・介護連携促進ワーキンググループ会議、在宅医療・介護連携推進会議で議題し、フィードバックを行う。

◆医療的知識の向上等について

- ・研修会はどのような研修に参加しているのか。

⇒コロナ過でなかなか参加はできていないが、主任ケアマネ部会の研修や自法人の研修には参加して知識向上に繋げている。

⇒医療・福祉機器メーカー主催の研修会に参加している。

⇒在宅医療・介護連携支援センター開催の研修や阿南市よりの研修に積極的に参加して、スキルアップをしていく。

◆BCPの作成について

- ・BCPの作成について、色々検討しているがどのように作成しているか。
- ⇒経過的措置であり現在作成中の事業所が多い。作成済みの施設は、法人内での統一様式を使用、研修会に参加した時に得た様式で作成している。阿南市よりは決まった様式は無いので、もし情報等があれば提供するが事業所間の情報交換等で作成を進めていく。

(5)組織運営について

阿南市内の居宅介護支援事業所部会の立ち上げに賛同して頂き、令和3年度の部会長として心和在宅介護支援センター悠和の山脇管理者に推薦により決定。

今後は、部会を積極的に活用してより良い関係の構築をして運営に反映させていく。

【総評】

名前は知っているが顔が分からない、悩みや不安があった職員が直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、地域包括ケアシステムへ一番重要視されていることが多い職種でもあるので、魅力ある職種としての方向性を統一する良い連絡会となった。

医療と介護の連携で、スキルアップが課題との意見があったので、当センターや阿南市より研修案内や情報提供をし、活用して頂く。

連絡や情報交換はメール等を活用してスムーズな連携に繋げる体制で部会運営を行っていく提案し、参加者よりの賛同を得られることができた。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【連絡会風景】



報告者：センター長 湯浅 祐司